

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆
小林国二・小林善秋・高橋潔・室賀清輝
高橋利春・加瀬由紀子・屋代健
近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信
後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社



永代供養墓「慈雲塔」

ご家族の皆さままでご覧ください

暑中御見舞申し上げます

翠巖弘

民間有識者でつくる「日本創成会議」の分科会が公表した2040年までに全国の自治体の半数が将来的に「消滅」の危機にさらされる。との将来推計の結果に、日本中が大騒ぎになりました。地方の地域経済は、高齢者の消費や、高齢者施設などが、地方に住みたいと願う若者に仕事の場を与え、成り立ってきた部分が多々ありました。

少子高齢化の中、高齢者数が減り始めると同時に、地域経済は成り立ちが難しくなり、仕事がいばかりに若者が都会に流出し、人口減少スピードが加速する悪循環になります。とりわけ次世代を出生する二十〜三十歳代の女性

の流出は深刻な問題です。彼女たちが現在の半数以下になった自治体は人口が減り続け全国で八九六もの自治体が消滅する可能性があるそうです。県庁所在地の青森市や秋田市までがふくまれ、新潟県も多数の自治体がふくまれております。

て、自治体の消滅は減り、明るい日本の未来が期待できると思います。

地方からの若者を集めてきた東京も、色々な理由で出生率が低く、若者減少が進みはじめ、このまま手を打たなければ世界で一番の高齢化の進んだ都市になり、色々な面で一番住みにくい都市になるのではと、心配になります。

上の写真は永年願っていた永代供養墓です。壇信徒の方々の中でも色々な理由により、お墓を守る人がいなくなったり、二人暮らし、一人暮らしの方々も多数おいでになり、早く作ってくださいとお待ちの方が大勢いられた。今年春の春彼岸明けの日に、開眼法要を厳修致しました。『慈雲塔』と名づけましたが、『慈雲』とは仏のめぐみの広大なたとえで、納骨された方々が観音様の懐にいだかれて安心していただきたいとの願いです。

よく考え、地方で若者が働ける社会を作り、東京を子供を産みやすい環境の都市にすることによっ

毎年秋の彼岸明けの日、懇ろに御供養させて戴く予定にしております。

【日々精進(二十五)】

仏前結婚式普及プロジェクト 結の仏

近藤 真弘

私が所属しております

会に「新潟県曹洞宗青年会」という会があります。名前の通り新潟県内の曹洞宗青年僧侶の会です。この会が今年三十五周年を迎えます。三十周年の際には田上の東龍寺様を会場にお授戒を行いました。そしてこの度、周年事業として動き出しているのが「仏前結婚式普及プロジェクト」です。

現在日本では様々な様式の結婚式が執り行われています。一般的に周知されているのは教会で行われるキリスト教式や神社で行われる神前式の結婚式で仏前結婚式は挙式数、認知度共にごく僅かです。実際に私も今まで多くの結婚式に招待いただきましたが、僧侶の結婚式以外では多くがチャペル

での結婚式でした。

これは結婚式自体は仏教やキリスト教や神道といった宗教の中で行われているが新郎新婦はそれぞれの信仰のもとに選ぶのではなく、その形式や、流行といった要素が選ぶ理由の大半になっているからではと思います。

中でも仏教はお葬式や、

法事といった「おめでたい」とは逆のイメージを持つ人が多いのもその理由の一つだと思います。

以前聞いた話で禅に興味を持ち海外で、禅の勉強をして日本にやってきたアメリカの方が日本に来た際にタクシーに乗ろうとし、ちょうど通りかかったタクシーを止め

ようとすると一緒にいた日本人が縁起が悪いからやめたほうがいいと言ったそうです。そのタクシーは「タクシー」という名前でした。そのアメリカ人は「仏教のマーク」というのは知っていました

がなぜ縁起が悪いのかその時は理解できなかったそうです。しかしその後日本に滞在し、日本における仏教というのが所謂「死」と直結したイメージがあることがわかり、本来の仏教のイメージと離れていることに警鐘を鳴らしていました。

お釈迦様の教えは今を生きる我々に説いた教えです。それが日本人が大切にしているご先祖様を敬う気持ち、ご先祖様を供養する気持ちと重なったものが今の日本の仏

教です。

結婚式というのは新郎新婦が夫婦として共に歩むことを誓う式であり、それを両親をはじめとした家族や親戚、友人に

様に報告するという意味も含まれています。私自身これは大変素晴らしいことだと思います。安善寺でも僧侶以外、一般の方の結婚式を何度か挙げさせてもらいましたが新郎新婦や親戚の方にも大変評判は良かったです。

この度の「仏前結婚式プロジェクト」結の仏」では一般の方を対象に何組かの結婚式を新潟県曹洞宗青年会が普及を目的に援助させていただき挙行する計画を立てています。

安善寺ではKAKA笑の会のイベントなどで多くの人にお寺に入参りしてもらうことを実践してまいりました。今回の結婚式のイベントを機に多くのお寺で「おめでたい」行事が行われることを願います。

皆さんも身近で結婚式を挙げる予定の方がいましたら是非仏前結婚式をお勧めください。



お母さん、 ありがとう

高橋とも子

母が亡くなって八年目の長岡花火がやってきます。長岡花火の八月二日、花火の音を聞きながら、だんだん息が荒くなり、午後十一時に息を引き取りました。

私の母は大正十一年生れ。五歳のときに両親に次々と死別し、新潟市の旅館で「養女」として育てられました。二十三歳の時、市内の手広く商売

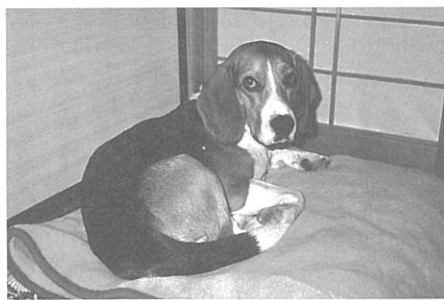


二人でスタート「入学式」

をして九人兄弟の長男のところへ、養父母の勧めで嫁ぎ、一ヶ月で父は戦争へ。終戦後も父はロシアで捕虜として三年帰らずも母はその間、商家の嫁として務めます。父がようやく帰って来ましたが、父の留守中に社長として頑張っていた祖父が他界。戦争で地獄を見てきた父にとって故郷は天国だったに違いありません。なかなか仕事に精が入らず、母はようやく生

ありがとう。これからは再婚してもいいからね」と言うと、母は「こんな大変な時を終わるのに…」と悲しそうな顔をしました。私はこの時、一生母と歩む事を決めました。

私が結婚し、孫が生まれ、母は孫の子育てを楽しみました。孫達が社会人となったころから母の様子がおかしくなり、怒りっぽくなってきました。ただの年寄りのわがままと思いましたが、お医者様に連れて行くと「アルツハイマー発症」とのこと。早くて一年、遅くて十年程かかり寝たきりになるとの診



断でした。結局、七年で寝たきりになり、三年半で息を引き取りました。最後は花火の日だったので来客などで家族は私一人だけで看取ることになってしまい、自分を責め、一人でクヨクヨして



三人目の孫のお宮参り

いました。テレビドラマのように家族全員で見送ることができると思っていたのです。ある日、姉のように仲良くしている友人に訴えたところ「お母さんは貴方と二人だけで別れたかったのよ。だからその日を選んだの」と言われ、いっばい涙して心を落ち着かせることができました。ところで、孫達が大きくなった頃、母の次の子供としてビーグル犬を飼いました。この犬がゴソゴソして甘えん坊、母の手を煩わせながらも我家の灯りでした。その犬も母が亡くなって二ヶ月後、母を追うように息を引き取りました。今は母と同じ安善寺様の動物用のお墓で眠っております。母に遊んでもらっているでしょうか？

今年の長岡花火も美しく咲き、私を癒してくれていることでしょう。お母さん、ありがとう。

安藤前編集長十二回忌追悼

安善寺広報編集長 小林 国二



安藤前安善寺広報編集長がこの世を去ってからすでに十三年の歳月が流れた。

広報委員会はまだ健在で安藤前編集長の遺志を継いで発行されています。これには株式会社アサヒ様の力添えがなければ実現出来ない事業であります。アサヒ様の全面協力で

成しえる季刊誌なのです。安藤前編集長の遺言もあり、今もアサヒ様の現社長様が後援して下さいています。また、安藤前編集長の奥様にもご協力を賜り感謝するばかりです。

良き紙面作りを心掛けてはいますが、なかなか理想に近づくところまで行きません。安藤前編集長

が居たらきつと一括なさるのではないかと思っております。仏教を理解するには！ 安善寺を身近に感じ檀家さんの心の拠り所にするには！ と言ったことがテーマでした。

年四回の季刊誌ですが、他に類を見ない内容であると自負していますが、長くやっているといつの間にか同じ内容になって来る傾向があります。お寺と関係ない内容なども目立っていますが、紙面に旋風を！ と意気込む結果です。

歳を重ねるとマンネリ化になります。我こそはと思える方がおりましたら是非とも編集に参加して欲しいと思います。安藤前編集長の遺志を継ぎ理想の編集に向けてご一

緒に書きませんか。この季刊誌は皆様の季刊誌です。からドンドン原稿を送り下さい。お寺の事、家族の事、故人の事、基本的な想いや出来事をお寄せ戴ければ幸いです。

投稿なくして成り立たない季刊誌は皆様あつての季刊誌です。

私の想いを安藤前編集長に捧げます。

長岡市の姉妹都市 フォートワースからの 中高生が安善寺に



六月十七日、今年も長岡市と姉妹都市であるアメリカのフォートワースの中高生が安善寺にやってきました。

宗教施設というのほどここの国でもその国独特なものがあり、日本のお寺は「和」の代表的なものであるためか、あちらこちらでお寺に入る前から写真を撮りながら二十数名の方を迎え入れました。

住職の話し、坐禅指導を真剣に聞き、十数分の坐禅を静寂の中しっかりと

と座っていたいただき、その後は坐禅堂や本堂を案内し、興味深そうに説明に聞き入っていました。今回は時間に余裕があり客殿でそれぞれにお茶とお菓子を差し上げ、リラックスした時間も過ごしてもらえました。

文化の違いに直接触れることはそれぞれの価値観の違いに気付くことでもあります。今回も安善寺がそのような貴重な場面に利用していただいたことを有難く思います。

海外漫遊便り

沼田 金之

勤続三十五年の商社マンとして、海外駐在十二年、公私に亘り訪れた国は五十数ヶ国に上るが、ここに私の海外での楽しみ方をご紹介しようと思う。

現在私は日本(横浜)にあり、週末は会員数二千三百名を超える市民ボートクラブパワーズRC(ロイヤルクラブ)の代表と

して漕ぎ汗を流しているが、もう一つの趣味として海外の陸上競技観戦というものがある。

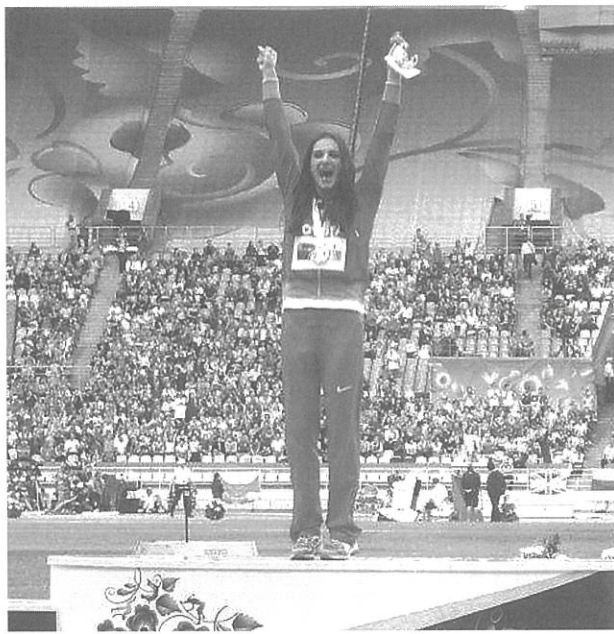
中学生の頃から全米オリンピック最終予選並びにヨーロッパ選手権等到大変関心を持っていたが、実際にその願いを実現できたのは、今から十五年前1999年深セン(中国)の

現地法人社長になって、時間も自分の采配で何とかなり、資金的にも余裕が出てからであった。

そこで、すぐさま私は1999年セベリア(スペイン)の世界陸上から始まって、2000年全米オリンピック最終予選(サクラメント)、シドニーオリンピック、2001年エドモントン(カナダ)世界陸上、2002年ヨーロッパ選手権(ミュンヘン)、帰国してからも2003年パリ世界陸上、2004年全米オリンピック最終予選(サクラメント)、2005年ヘルシンキ世界陸上、2007年大阪世界陸上、2008年全米オリンピック最終予選(ユージーン)、北京オリンピック、2009年ベルリン世界陸上、2010年ヨーロ

ッパ選手権(バルセロナ)、2011年テグ(韓国)世界陸上、2012年全米オリンピック最終予選(ユージーン)、2013年モスクワ世界陸上と観戦して来て、今年(2014年)はインチョン(韓国)のアジア大会、来年は北京世界陸上観戦を計画している。

いるが、当然のことながら、最初は予選があり、午前、晩(正確には夕方から夜半まで)フルスケジュールが組まれているが、大会が進むにつれて、予選が減り、準決勝、決勝ばかりになって午下が空いてくる。そこでその国、地域の素顔を見たい私はどこ



さて、ここで話そうと思っているのは、陸上競技の話ではない。上記大会にはオリンピックを除き、全日程観戦してきて

を訪れるか。(肉食ネコ科が好きなのもあり)動物園に行くことにしている。何となれば親は連れてきた幼い子供に飾り気の

ない素顔を見せているし、またそこで食べている昼食も正に家庭の味だからだ。各地各様で大変微笑ましいのだが、昨年行ったモスクワでその期待は見事に裏切られた。なぜか。至る所にレストラン、小売店が充実していて、母親がお弁当を作って来ている様子が全く見受られなかったからだ。どうしてだろうか、とふと考えた私は、これは社会主義時代からの名残り、即ち共稼ぎの母親に負担を掛けないためではないか、と結論付けたがどうだろう。その推測と事実が違おうがどうということはない。要は自分流に楽しめばいいのだ。次回は上記陸上競技観戦チケット購入(私は最高の席を各開催国陸上競技連盟チケット販売窓口と直接交渉しながら入手してきている)に関わる各国お国柄についてご紹介しようと思う。乞うご期待!

KAKA笑の会 「旬の食材を使って」底力を発揮!

献立

- 一 煮もの 筍・凍豆腐・椎茸・えのき・山椒
- 一 揚げもの 猪道コロッケ・凍豆腐
- 一 焼もの 筍・山椒
- 一 和えもの かまぼこ・たまご
- 一 酢味噌 えのき・うらら
- 一 山芋 トマト・リンゴ・煮かき・山芋・しらす・煮え菜
- 一 筍ご飯 砂糖・梅肉
- 一 味噌汁 ゆうがき・しらす・若芽
- 一 漬もの 梅多漬・たくあん
- 一 デザート うぐす子・田子

平成二十五年五月四日

安否手帳KAKA

KAKA笑の会も、発足から十一年目に入りました。今年の催しを決める会議の中で「今年はどうな...?」「精進料理が一番やった感があるし、勉強にもなるかな...」という意見に即決。過去に四回ほど小金山老師にお出で頂いている経験を生かして「会員が案を出し合っ



なり、それぞれに精進料理を持ち寄ること数回、十余名のメンバーが、その都度持ち寄った料理は、「すぐ居酒屋が出来るね!」と言うくらいアイデアに富んだ美味しいものでした。皆さんにご披露できないのが残念です。

そんな中、今まで百食だったのを五十食に減らし、その中から厳選して定期的に「筍」をメインに



何とか写真のようなメニューのお料理が出来上がり、「美味しかった」「きれいなお料理でした」とのお声もいただき、ベテラン主婦の底力を発揮して無事終えることができました。



お別れ

(平成廿六年三月〜七月五日まで)

- 高橋中理様 一月三十日寂
- 東京都世田谷区
- 寒川善明様 三月二日寂
- 東京都日野市
- 寒川かま様 三月四日寂
- 東京都杉並区
- 山崎浩子様 三月四日寂
- 新潟市東区
- 山本タマ様 三月十一日寂
- 長岡市長町
- 芳川トミ様 三月廿八日寂
- 北海道
- 大平登志子様 四月廿四日寂
- 長岡市呉服町
- 山谷義信様 四月廿二日寂
- 長岡市堤町
- 小林三三様 四月廿八日寂
- 長岡市脇之町
- 菊田愛子様 五月廿三日寂
- 長岡市
- 南雲トヨ子 五月廿六日寂
- 長岡市川崎
- 五十嵐誠様 六月十三日寂
- 東京都東村山町
- 笠井テル様 六月十八日寂
- 長岡市ニッ郷屋
- 小幡カツ様 七月一日寂
- 長岡市中島

※前号のお別れで「石田スミ様」とありましたが、「石田ミス様」の誤りでした。訂正し、謹んでお詫び申し上げます。

旬歌 愁灯

[三十一話]

「ララララ」 秘境西ネパールの旅(その二)

加瀬由紀子

キャラバン(山岳ガイド、サーター、コック、ポーター五人、ロバ使い二人、ロバ五頭、我々含め十二名)は凍結し、またはぬかるみの雪道をその後も確実に進んで行く。

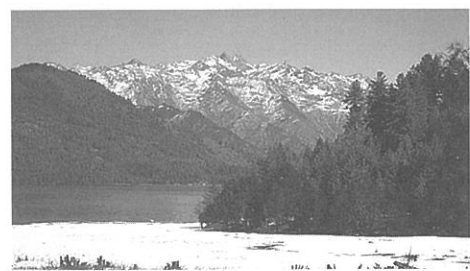
ブルブルという集落から軍隊のチェックポストを通過、難渋しながらピークに着く。雪が舞う標高四千メートル近い峠は、タルチョ(経文や馬の絵などが描かれた五色のチベットの旗)が風に舞っていた。飛んでくる氷粒が顔に痛い。

凍結した谷を恐る恐る下るとようやく車道に出た。といつても深くえぐれてぬかるんだ道路を通る車は皆無だ。モンソンには川となる道は、先進国の支援で造られたそ

うだが、機能していない。現地の住民が、ヤギ、ヒツジ、水牛を追いながら利用する旧来の細い山道をまばらな林の中へと登って行く。崖にへばりつくように長屋状の石積み建物の集落だ。建物の上(つまり屋上)がつながっている。細長い広場になって、人々はその上を行き来し、子供たちが遊んでいる。なかなか合理的な利用法だ。

やがて広々とした峠の雪原に出る。樹林帯の膝までの積雪に喘いで、山火事で開けた広場に到着。ついに念願のララ湖が見えてきた。陽の光が青い湖面にきらめいている。十和田湖ほどの大きさだが、標高は富士山に近い。

青い空とヒマラヤ山脈の白い峰々を映す、人影もない静かな湖。かつてあまりの美しさに心を奪われた王が、付近の住民(六千人とか)をすべて追いついて別荘を建てたという。良くも悪くも澄んだ水と美しい森の自然は保たれ、国立公園に指定されている。



西ネパールの秘境・ララ湖

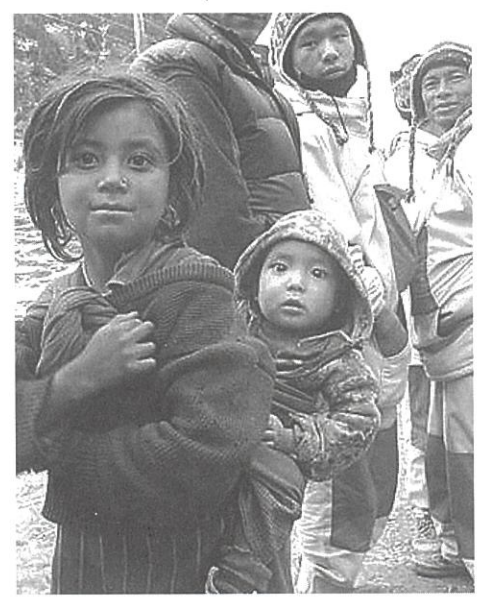
対岸にあるロッジに宿

泊。ツインの部屋が一泊五百円!粗末なベッドに寝袋を払げて寝むが、太陽が射していても、猛烈な寒さで眠れない。国立公園なのでたき火もできない。ポーター達もあらゆる防寒着をまといテントで寒さをしのいでいる。おまけにトイレは先回書いたように最悪とき

明治の昔に日本の僧、河口慧海は仏教の経典を求め、寒さに耐えながら五千メートルの峠を越えたのだ。その志の高さを思えばまだまだ…とはいうものの、西ネパール辺境のキャラバンは、雪と氷と極寒の難行の連続だった。

一ヶ月の道中の楽しみは、コックのチリさんが作る天丼、ちらしずし、お汁粉といった日本食だったのが情けない。(通常はカレーとチャパティ) また物珍しさに集まってきた子供たちに、日本から持ってきたノートや

ボールペンを渡すと、お礼にとチベット犬の子犬を抱かせてくれたり、心和む交歓も嬉しかった。



子守りをする少女

ネパール人も殆ど知らない西ネパールだが、家に呼ばれて、ヒツジ肉の煮込みを御馳走になったり、ロキシという地酒をお土産にもらったり、心開けば通じるものだ。

だが、ある少女との出会いは忘れられない。小さな手も髪も汚れていて服は穴だらけだが、大きな目の可愛い少女は小学校三年生ぐらいだったろうか。ガイドに歳と名前

を聞くように頼んだ返事は:「この子が一番下のカーストの子です。貧乏で学校は一ヶ月で辞めています。自分の名前と年齢、村の名前がわかりません。数はわかりません。兄弟は十人ぐらい。遠くの村から子守りに働きにきています。たぶんもう少し大きくなればインドに売られるでしょう。」

幸薄い運命を受け入れてけなげに微笑む少女の写真を見る度に、心が痛み、寒さと食事に文句をつけたわが身を恥ずかしく思うのだ。

